

2023年5月30日

安全・安心のさらなる向上、バリアフリー対応と環境負荷の低減、沿線の風景にも配慮

嵐電 新型車両「KYOTRAM」（「きょうとらむ」）7両導入

京福電気鉄道株式会社は、嵐電（京福電気鉄道嵐山線）に新型車両7両を導入します。

嵐電には現在、電動客車27両が在籍していますが、うち老朽化が進んでいるモボ101形6両と301形1両を、2024年度から2028年度にかけて順次、新型車両に置き換えます。

導入予定の車両は、運転保安度の向上やバリアフリー対応、多言語対応などはもちろん、VVVFインバータ制御や回生ブレーキ※の導入により消費電力量を大幅に削減、環境負荷低減によるSDGs達成に貢献します。車体は、京都の歴史や古くからの「路面電車」のイメージを大切に残しつつ、沿線の「まち」「ひと」「くらし」に馴染み、「嵐電が走る街並み」がより京都らしく魅力的な風景となるようにデザインします。

新型車両の愛称は「KYOTRAM」。京都を走る「人と地球にやさしい」トラム（tram：路面電車）が、嵐電沿線の皆さまのくらしの風景を彩り、国内や世界中から「KYOTO」にお越しになる観光客の皆さまに安全・快適で心に残る旅を提供します。

嵐電新型車両「KYOTRAM」の概要は別紙のとおりです。

※回生ブレーキ：電車がブレーキをかけたときモータを発電機として作用させ、発生した電力を架線に戻し、ほかの電車はその電力を使うことで作用する電気式ブレーキのこと。



Rendering © GK-DSH 2023

(別紙)

1. 導入スケジュール (予定)

2024年度：1両、2025年度～2028年度：計6両

2. 特徴

①安全・安心・快適のさらなる向上 ～「人にやさしい路面電車」

- ・運行の安全性・安定性の向上、バリアフリー・多言語対応など、すべての人にやさしいご利用環境を整備。
- ・ナノイーX発生装置(※)を搭載し、安心・快適な車内空間へ。

(※)「ナノイー」は、パナソニック ホールディングス株式会社の商標です。

②環境負荷の低減 ～「地球にやさしい路面電車」

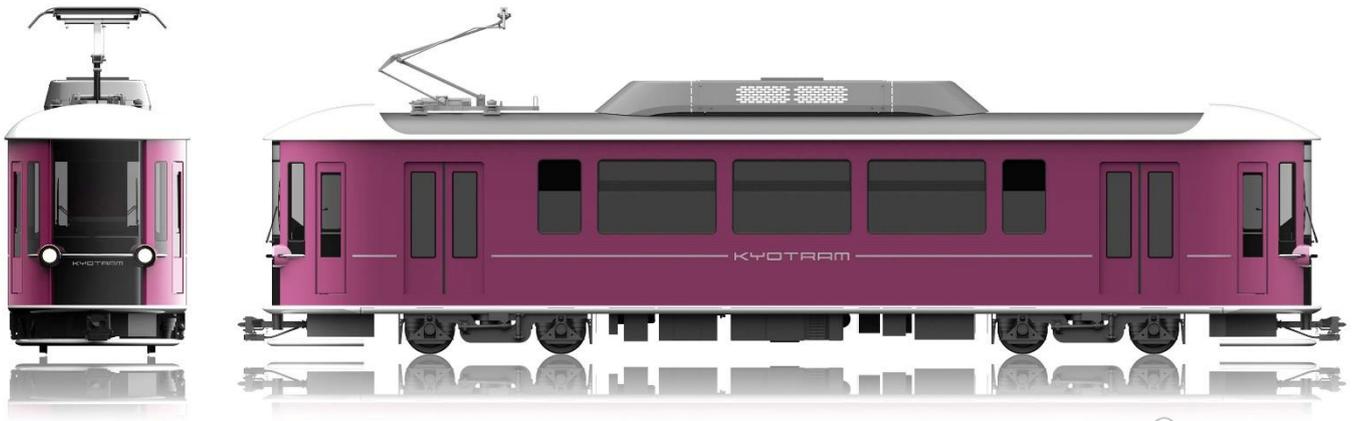
- ・VVVFインバータ制御と回生ブレーキの導入により、1両当たりの消費電力量は、現抵抗制御車両の約半分となる見込み。

※なお、2022年度にモボ2001形VVVFインバータ制御車両2両に、嵐電で初めての回生ブレーキ追加工事を実施。2023年度には回生電力貯蔵装置を導入。

③京都らしいデザイン ～ 「京都のまち・ひと・くらしと共に在る路面電車」

- ・京都の「まち」「ひと」「くらし」に馴染み、沿線の魅力的な風景を彩るデザイン。

(車両デザイン (イメージ))



Rendering © GK-DSH 2023

- ・嵐電のイメージカラーである京紫色を基調に、沿線の風景に溶け込むシンプルなデザイン。
- ・古くからの「路面電車」や「嵐電」の車両の特徴をオマージュした車体前後の曲線的なフォルム。
- ・窓を大きく取り、明るく、快適に沿線の風景をゆったりとお楽しみいただける車内環境。

©本資料記載の情報は現段階での計画です。今後、内容が変更となる場合もあります。

以上